

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 22 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	371503122		
法人名	ゆうゆう株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう神谷川		
所在地	広島県福山市新市町新市258-2		
	電話番号	0847-54-1855	
自己評価作成日	平成 28年 2月 4日	評価結果市町村受理日	平成 28年 4月 4日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 28 年 3 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆうゆう神谷川では、「役割を持って楽しく過ごせるグループホーム」を理念とさせていただいています。利用者様一人一人が出来る事を役割としてしていただき、潜在能力を活かすとともに、生きがいとしてもらえるようサポートさせていただいています。また、夏にはかき氷やうちわ、冬にはこたつというように家庭的な雰囲気大切にします。利用者様が自宅で行っていた習慣も大切にし、一緒に散歩へ行ったり、自宅近所の神社へ出掛けたりという事もサポートさせていただいています。利用者様にとって居心地の良い場所となれるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には、支所や歴史資料館、老人福祉センター等があり、恵まれた環境にある。同法人の小規模多機能の事業所が併設されていて共に協力し、それぞれの利用者を支え合い安全な暮らしの確保に努めている。地域との交流も近隣の同法人複数の事業所合同での食事会を実施し、地域の方や家族など、多くの参加が得られ、毎年恒例となり、家族や地域の方も楽しみにされているようである。又、地域行事の夏祭には救護班という役割とゆうゆう独自のお店も出され地域の一員として参加し年々交流も深まっている。ケア面に於いても法人全体の研修やゆうゆう神谷川合同の研修も計画的に実施し個々のスキルアップに繋げられ介護の基本を大切に一人ひとりに寄り添い、生活歴を細かく把握し、ニーズに合わせたケアを心がけている。又、できる事は其の人の役割として捉え張りのある生活に繋げられ、一日を楽しく、其の人らしく、生きがいを持って暮せる様職員が一人となり取り組まれている。管理者、職員の言葉かけも優しく明るく家庭的な雰囲気のある事業所である。庭には犬やカモ、テラスにはウサギも飼われ触れ合う事で精神的に癒され穏やかに過ごせる環境づくりとなっている。更なる飛躍に期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作り、提示している。	企業理念は下より、職員で作成された独自の理念を見えやすい場所に掲げられ、全職員が統一したケアに心掛ける様、日々周知されている。また、企業理念は毎朝唱和し振り返る機会とし、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや保育所の餅つき行事等、積極的に関わっている。また、日々、入居者様と地域を散歩している。	保育所の餅つき行事に参加したり、夏祭りには救護班の役割、又、事業所として、参加者にうちわなどを配布する等地域の一員として行事に参加している。事業所主催の合同食事会には近隣や家族の方に来てもらい盛大に行われ交流が深まっている。散歩時には挨拶をする事で顔見知りになり地域資源の活用に関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会活動や地域行事に参加し認知症の勉強会等の派遣講師が出来る事をアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し、参考意見を取り入れいている。	家族代表、近隣の方、地域の各役員、老人福祉センターの職員、行政、包括等の参加の下、ヒアリーハットを含め現状を細かく報告し、意見交換の場とし、地域の行事等の情報や立場の違う方々の意見や質問があり、それらの意見等はサービスに活かしている。毎回有意義な会議となっている。感染症等の勉強会となる事もあ	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や支所会議などで、意見交換や情報交換を行い、協力関係を築いている。	疑問点や困難事例がある場合はケアマネが訪問し相談する等連携が図られている。又、運営推進会議に毎回参加が得られ、取り組みや実情は把握されている。毎月開催される支所会議にも参加し、協力関係を築く様努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の勉強会を行い業務へ活かしている。	法人全体の研修や事業所内の全体会議でも研修をしている。又、日々の申し送り時にも周知し全職員が禁止となる行為については理解されている。常に隣接の小規模多機能事業所と連携を取り見守りを重視し、その人の想いを阻止しない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、勉強会を行い業務へ活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体で学ぶ機会を持つことが、なかなか出来ていないのですが、全体で勉強していかなくてはと、考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明、話し合いの場を設け意見を聞き、疑問や不安を解消し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、家族会や面会時などに積極的に話をしている。	2ヶ月ごとの家族会や訪問時に現状報告をする際、意見や要望の聴取に努めている。又、事業所の行事クリスマス会の準備の手伝いをして下さる時や合同食事会の中でも何気ない会話の中から聴き取ることもある。その中でどの要望や思いは職員に周知すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや個人面談などで、意見を聞いている。	全体会議や各部署会議の中で提案や意見を聞く様に努めている。出やすい雰囲気であり、多くの意見や提案が出る。ケア面に限らず環境整備の提案も出る。それらの意見は運営に反映させると共に検討結果も伝えている。個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を活用し、個々の適切な評価に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修や事業所内の研修を開催している。また、資格取得も会社の援助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議、支所会議に参加し、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と馴染みの関係を築けるよう努力しており、入居者様の話がゆっくり聞けるよう、毎日ゆったりとした時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入所後も家族様・本人様の意見などを積極的に聞き、不安のない関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーと連携し、本当に必要なサービスや本人様・家族が求めているサービスが何かを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の立場でケアを行い、楽しく共同生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会が出来る環境を作り、家族様と協力しながら、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を参考にし、また現在の思い実現できるようケアに努めている。	知人や家族、親戚の訪問も多くある。希望で自宅近くの神社や馴染の商店があった場所などまでドライブに行く事もあり、馴染みの場所や人との関係継続が少しでも長く続く様、柔軟な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	買い物や外出、その他の行事を皆で楽しめるようケアし、また日常での共通の趣味などを見つけ、入居者様同士が自然に関わりあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った時など、その他相談等に対して受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活にそった生活を、入居後も実現できるように、希望がかなえられるよう努めている。	口答で言われる方が多く、買い物や散歩などの希望が出る。又、一対一の対応時にも思いを聞く事があり、個々の想いは職員で共有し、可能な限り対応している。生活歴を大切にした支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や意見、要望を聞き取りサービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の日課をたて、また朝・夕の申し送りで職員全員が状態を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングなどで意見を聞き、サービス向上に努めている。	基本情報やアセスメント、家族の要望、本人の希望を基にカンファレンスを行うと共に担当者会議で検討し作成している。定期的にモニタリングを実施し、半年毎に見直しもされている。状況変化が起きた場合は即見直しされ職員にも周知し、家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルや朝・夕の申し送り等で情報を共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時代の流れや入居者様の状態の変化に対応できるように、柔軟なサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩や買い物などを通じて関係を深めていき、地域全体で支援していただける環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医師と連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関での対応の方が多く、往診は月2回、緊急時や夜間等24時間体制ができていて安心である。訪問歯科支援もある。かかりつけ医の場合は家族対応であるが状況によっては柔軟に受診支援し、結果等についても家族に報告し常に安心安全に心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上他の変化などがあれば、直ぐに報告・相談できる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や地域連携室と連携し、家族と話し合いながら、最善を尽くしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・入退院時や状態に大きな変化があった際に、その都度、重度化した場合における家族様の意向を聞き、その意向に添えるよう、医師・看護師等と連携をとっている。	利用開始時看取りに関する指針について説明されているが身体状況の変化が生じた場合はその都度意向の確認を行い、想いに添った支援に取り組まれている。看取り時には、日々の状況を毎日家族に報告しながら、主治医、看護師と連携を取り、家族の協力を得、支援された。看護師による看取り研修も事例を基に実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル等で備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や地域の防災訓練、市の消火訓練大会に参加し、技術や知識を勉強している。	市主催の消火訓練大会に参加し知識を高めている。又、消防署指導により初期消火、通報、避難等の訓練も年1回は実施し、的確に対応出来る様取り組まれている。近隣や家族の方の参加も得られている。運営推進会議でも防災等を課題とし助言や協力体制強化に努める方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当たり前のことではあるが、声かけやドアのノックなど個人を尊重した対応を心掛けている。	法人全体研修に参加し、資料を基に全体会議で全職員に周知すると共に尊厳を大切に声かけや対応をするよう事あるごとに話し合っている。気付いた時はその場で指導している。常に人生の先輩という事を念頭に置き支援する様心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望が叶えられるよう常に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活習慣やペースに合わせた日課表を作り、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好みを尊重し、その人らしい身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、昼・夕と厨房より配達をしてもらっているが、お味噌汁・米を炊くという作業は職員と入居者様で行っている。また、配膳・下膳は入居者様が積極的にして下さる。	身体状況に合わせた形態で食を促す声かけや会話をしながらの愉しみの時間となっている。食材も多く食をそれぞれ盛り付けで殆ど方が完食されている。下膳や後片づけ等積極的にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	上記同様で厨房より配達をもらっているの で、栄養バランスはもちろん、色合いも綺麗な食事を提供することができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助や声かけを行い、異常あれば家族様に相談のうえで受診または往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導に加え、本人様の訴えに応じて排泄介助・支援を行っています。	自立の方が多く、見守りで対応されている。個々の排泄パターンと表情等から把握しトイレでの排泄支援に心掛けている。排便管理もされ食べ物等の工夫をし不穩にならない様取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給や主治医による処方便秘薬等で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めてはいるが、本人様の希望または体調に合わせて入浴を行っている。	週2～3回、曜日も決められているが、其の日の身体状況を見ながら希望を優先した支援をされ、湯温等の希望もあり想いに添った対応で楽しみとなる様務めている。利用者同士(2人)で入浴される事もある。毎日でも入浴できる体制もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さないよう、本人様の体調に合わせて、日中の活動を支援を行っている。また、自宅で使用していた使い慣れた布団等を持ち込むなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や家族様と連携し、職員全体で状態の変化等を共有し、主治医に報告できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割など楽しみある生活を常に心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望を優先した、個別の外出をしている。また定期的な外出行事も行っている。	季節ごとのお花見や近隣の商店への買い物、資料館での催し物を見に行かれたり、毎日の様に散歩に出かけている。地域行事等にも積極的に出かけられ、外気に触れる機会を多く持たれている。又、少し遠出(御調の道の駅)へのドライブ、外食にも出かけられ、五感刺激と気分転換を図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが、本人様が買いたいものなどがある際は一緒に買い物へ行く支援を行っている。また、持っておきたい方には定期的におこずかいをお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が代わりに行う事が多いが、希望がある際は柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を広々使い、ゆったりと過ごしてもらっている。また、冬にはこたつを出すなど、季節感や家庭的な雰囲気を大切にしている。	手作りの装飾品や可愛い季節の花も生けられ、明るく清潔に保たれ、死角もなく見守りし易い、また、ホーム炬燵もあり、ご飯の炊ける匂いで生活感を感じる事ができ、家庭的な雰囲気である。不快な匂いもなく室温にも配慮され居心地よく過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・丸テーブル・こたつなどを使用し快適な空間を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や趣味の絵などを飾り、自宅にいた時と変わらない空間を目指している。	家族との思い出の写真や、寝具、読書の好きな方は小説を沢山持ち込まれる等、それぞれ自宅に近い工夫をされ、違和感なく落ちついて過ごせる環境作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一に自立支援の立場で、ケアを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの			○	②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある			○	②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている	○	①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名:グループホームゆうゆう神谷川

作成日:平成28年4月1日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	市主催の消防訓練大会へ参加と、年1回消火・避難訓練を行っているが、年2回消火・避難訓練ができていなかった。又なかなか施設内を行政・包括等の方に知ってもらえていない。	運営推進会議の日程と合わせ、消火・避難訓練を行い、行政の方や包括、地域住民の方に施設内を知ってもらう機会とする。	運営推進会議の日程に合わせ、消火・避難訓練の内容を計画し、会議で提案し周知する。地域の方へも案内を配布し参加を募る。4月には既に行事として予定しているので、半年後(10月)に行なう。	半年 (7月~10月)
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。